

西洋文化史演習 I レジメ

グリム童話は中世史の史料となり得るのか

1. グリム童話には多くの版がある

エーレンベルク稿 (1810年ブレンターノに送る) 48篇

初版 (1812年-1815年) 156篇 (第1巻86篇、第2巻70篇)

第2版 (1819年) 161篇 (第1巻86篇、第2巻75篇)

第3版 (1837年) 168篇 (第1巻86篇、第2巻82篇)

第4版 (1840年) 178篇 (第1巻86篇、第2巻92篇)

第5版 (1843年) 194篇 (第1巻86篇、第2巻98篇)

第6版 (1850年) 200篇 (第1巻86篇、第2巻114篇)

第7版 (1857年) 200篇 (第1巻86篇、第2巻114篇)

2. ヴィルヘルムによる改作を考慮する必要がある

諸版の話の長さがエーレンベルク稿の二倍

物語性を持たせるようになる

3. お話しおばさんの問題

レレケの研究

ドロテア=フィーマン

マリー=ハッセンプフルーク

兄弟の典拠となったもの

4. 「赤ずきん」・「眠れる森の美女」・「シンデレラ」

シャルル・ペロー Charles Perrault (1628-1703)

『寓意のある昔話、またはコント集〜がちょうおばさんの話 *Histoires ou contes du temps passé, avec des moralités : Contes de ma mère l'Oye*』1697。

ジャンバッティスタ・バジール Giambattista Basile (1575? - 1632) 『ペンタメローネ *Pentamerone*』1634。

「葉限」『酉陽雜俎(ゆうようざつそ)』〈續集・卷一・支諾皋上〉860年頃
エックハルト・ザンダーの説

マルガレータ・フォン・ヴァルデック (1533 - 1554)

5. 『童話』がまとめられた時代の影響を考慮しなくてはならない

ロマン主義運動→過去に目を向ける

グリム兄弟『グリム童話名作選』(「小さい版」) 1825年

子供向けに改変

結論

参考文献

沖島博美／朝倉めぐみ『グリム童話で旅するドイツ・メルヘン街道』ダイヤモンド社、2012年、pp. 47-49.

鈴木晶『グリム童話 ―メルヘンの深層』講談社現代新書、1991年

ハインツ・レレケ(小澤俊夫訳)『グリム兄弟のメルヘン』岩波書店、1990年